

応用的なコール処理

応用的なコール処理のタスクには、特別な機能が伴うため、コール処理の需要や作業環境に応じて、システム管理者に電話機の設定を依頼します。

スピードダイヤル


スピードダイヤルを使用すれば、ホットキーを押したり、リストから選択したりして、コールを発信できます。設定に応じて、電話機で、次のスピードダイヤル機能をサポートできます。

- 「スピードダイヤルホットキー」(P.61)
- 「回線表示スピードダイヤル」(P.62)
- 「短縮ダイヤル」(P.62)
- 「ファストダイヤル」(P.62)


スピードダイヤルホットキー

スピードダイヤルホットキーを使用すれば、ご使用の電話機にローカルで保存されている電話帳の連絡先番号を素早くダイヤルすることができます。電話機から最大 99 のスピードダイヤルホットキーを設定できます。コールを発信するには、スピードダイヤルホットキーを押し続けるか、[ディレクトリ (Directory)] > [スピードダイヤル (Speed Dials)] から番号を選択するだけです。


メイン電話帳スクリーンに、割り当てられている電話機の種類に基づいて、以下のスピードダイヤルが表示されます。

 職場の電話

 家の電話

 携帯電話


 その他の電話

電話帳の連絡先の詳細には、スピードダイヤルアイコン () が、スピードダイヤルホットキーに割り当てられている番号の下に表示されます。

詳細については、「スピードダイヤルとファストダイヤルの使用」(P.62) と「電話機の電話帳の使用」(P.104) を参照してください。

回線表示スピードダイヤル

回線表示スピードダイヤルを使用すれば、ローカルの電話帳には保存されていない番号を素早くダイヤルすることができます。回線表示スピードダイヤル番号は、ユーザ オプション **Web** ページから設定します。電話機には、最大 6 つの番号（回線とスピードダイヤル番号の組み合わせ）を表示できます。

コールを発信するには、回線表示からスピードダイヤル（）を選択します。

詳細については、「[スピードダイヤルとファストダイヤルの使用](#)」(P.62) と「[Web でのスピードダイヤルの設定](#)」(P.117) を参照してください。

短縮ダイヤル

短縮ダイヤルを使用すれば、短縮ダイヤルコードを使用して番号をダイヤルすることができます。短縮ダイヤルは、ユーザ オプション **Web** ページから設定します。

コールを発信するには、短縮ダイヤルコードおよび [短縮 (AbbrDial)] ソフトキーを使用します。

詳細については、「[スピードダイヤルとファストダイヤルの使用](#)」(P.62) と「[Web でのスピードダイヤルの設定](#)」(P.117) を参照してください。

ファストダイヤル

ファストダイヤルを使用すれば、ファストダイヤルリストからコールを発信することができます。最初に、ユーザ オプション **Web** ページから、ファストダイヤルサービスに参加して、ファストダイヤルコードを設定する必要があります。同 **Web** ページでは、ファストダイヤルコードを個人アドレス帳のエントリに追加することも可能です。

コールを発信するには、ファストダイヤルサービス オプションを選択し、ファストダイヤルリストから選択します。








詳細は、「[スピードダイヤルとファストダイヤルの使用](#)」(P.62)、「[Web でのスピードダイヤルの設定](#)」(P.117)、および「[Web でのパーソナルディレクトリの使用方法](#)」(P.118) を参照してください。



(注) スピードダイヤル機能は、システム管理者に設定してもらうことができます。

スピードダイヤルとファストダイヤルの使用

この機能を使用する前に、電話帳（「[電話機の電話帳の使用](#)」(P.104) を参照）、またはユーザ オプション **Web** ページ（「[ユーザ オプション Web ページへのアクセス](#)」(P.112) を参照）から、スピードダイヤル機能を設定する必要があります。

目的	必要な操作
<p>スピードダイヤルホットキーを使用して、電話帳の連絡先にコールを発信する</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電話帳からスピードダイヤルホットキーを設定します。 2. 次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> - スピードダイヤルホットキーを約2秒間押し続けます。 <p>(注) 2桁の番号をダイヤルする場合、1桁目を入力してから、2桁目を約2秒間押し続けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> -  > [スピードダイヤル (Speed Dials)] を選択して、スピードダイヤルを強調表示し、 を押します。
<p>スピードダイヤルの番号を使用して、(電話帳にはない)他の番号にコールを発信する</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ユーザオプション Web ページからスピードダイヤルの番号を設定します。 2. コールを発信するには、 を押します。 3. スピードダイヤルの番号とそのラベルまでスクロールして、 を押します。 <p>(注) 回線表示に電話番号と、その後、 で特定されるスピードダイヤルの番号が表示されます。6つの項目(回線とスピードダイヤル)を表示することができます。</p>
<p>短縮ダイヤルを使用する</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ユーザオプション Web ページから短縮ダイヤルコードを設定します。 2. コールを発信するには、短縮ダイヤルコードを入力します。 3. [オプション (Options)] > [短縮 (AbbrDial)] を選択します。
<p>ファストダイヤルを使用する</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ユーザオプション Web ページから、ファストダイヤルサービスに参加して、ファストダイヤルコードを設定します。「ユーザオプション Web ページへのアクセス」(P.112)を参照してください。 2. コールを発信するには、電話機で  > [ファストダイヤルサービス (Fast Dial Service)] を選択します (正確な名前は異なる場合があります)。 3. リストをスクロールして、 を押します。


自分の電話機でリダイレクトされたコールをピックアップ

コールピックアップでは、同僚の電話機で呼び出し中となっているコールを、自分の電話機にリダイレクトすることによって、そのコールに応答できます。同僚とコール処理タスクを共有する場合、コールピックアップを使用できます。

目的	必要な操作
自分のコールピックアップグループ内の内線で鳴っているコールに応答する	<ol style="list-style-type: none">1. [オプション (Options)] > [ピックアップ (PickUp)] を選択します。 電話機が自動ピックアップをサポートしている場合、コールに接続されます。2. 電話機でコールが鳴ったら、[応答 (Answer)] を押してコールに接続します。
自分のコールピックアップグループ外の別の内線で鳴っているコールに応答する	<ol style="list-style-type: none">1. [オプション (Options)] > [Gピックアップ (GPickUp)] を選択します。2. グループピックアップ番号を入力します。 電話機が自動ピックアップをサポートしている場合、コールに接続されます。3. コールが鳴ったら、[応答 (Answer)] を押してコールに接続します。
自分のグループまたは関連付けられたグループ内の別の内線で鳴っているコールに応答する	<ol style="list-style-type: none">1. [オプション (Options)] > [他 Grp (OPickUp)] を選択します。 電話機が自動ピックアップをサポートしている場合、コールに接続されます。2. コールが鳴ったら、[応答 (Answer)] を押してコールに接続します。
特定の内線 (回線番号) で鳴っているコールに応答する	<ol style="list-style-type: none">1. [オプション (Options)] > [Gピックアップ (GPickUp)] を選択します。2. ピックアップするコールの回線番号を入力します。たとえば、ピックアップするコールが回線 12345 で鳴っている場合、12345 と入力します。 電話機が自動ピックアップをサポートしている場合、コールに接続されます。3. コールが鳴ったら、[応答 (Answer)] を押してコールに接続します。

ヒント


- ピックアップ対象のコールが複数ある場合、電話機は最も古いコール (呼び出し中の状態が最も長いコール) からピックアップします。



- [G ピック (GPickUp)] を選択して、回線番号を入力すると、電話機はその回線で呼び出し中のコールをピックアップします (回線が使用可能な場合)。
- 複数の回線があり、プライマリでない回線のコールをピックアップしたい場合、最初に
 - ▶  (回線表示) を押して目的の回線に切り替えてから、次に [オプション (Options)] を選択して [コールピックアップ (Call PickUp)] ソフトキーを選択します。
- ユーザの電話機の設定によっては、ピックアップグループへのコールに関する音声または表示 (あるいはその両方) によるアラートを受信する場合があります。
- BLF ピックアップ機能を電話機で使用する場合は、「[BLF の使用による回線の状態の確認](#)」(P.70) を参照してください。

パークされたコールの保存と取得

コールをパークすると、コールを保存し、Cisco Unified Communications Manager システムの別の電話機 (同僚のデスクや会議室の電話機など) でコールを取得できます。次の方法を使用してコールをパークできます。

- コールパーク : [パーク (Park)] ソフトキーを使用してコールを保存します。コールが保存されるコールパーク番号が電話機に表示されます。この番号を記録し、コールを取得する場合もこの番号を使用する必要があります。
- ダイレクトコールパーク : [転送 (Transfer)] ソフトキーを使用して、ダイヤルまたはスピードダイヤルする使用可能なダイレクトコールパーク番号にコールを転送します。ダイレクトコールパーク番号からコールを取得するには、パーク取得プレフィックスをダイヤルしてから、同じダイレクトコールパーク番号にダイヤルまたはスピードダイヤルします。スピードダイヤルは、ダイレクトコールパーク番号として、また、そのダイレクトコールパーク番号が使用されているか空きなのかをモニタすることを目的として使用することができます。

目的	必要な操作
コールパークを使用してアクティブなコールを保存する	<ol style="list-style-type: none"> 1. コール中、オプション (Options)] > [パーク (Park)] を選択します。 2. 電話スクリーンに表示されたコールパーク番号を書き留めます。 3.  を押します。
パークされたコールを取得する	ネットワーク内の任意の Cisco Unified IP Phone でコールのパーク番号を入力し、コールに接続します。

目的	必要な操作
アクティブなコールをダイレクト コール パーク番号に転送し、保存する	<ol style="list-style-type: none"> 1. コール中に [転送 (Transfer)] を押します。 2. パーク未使用アイコン  が付いたスピードダイヤル番号を選択して、ダイレクト コール パーク番号をスピードダイヤルします。 パーク使用中アイコン  が付いたスピードダイヤル番号は、そのダイレクト コール パーク番号が使用できないことを示します。 (注) スピードダイヤル番号に対して BLF が設定されていない場合、アイコンは、ダイレクト コール パーク番号が使用可能かどうかを示しません。 3. もう一度 [転送 (Transfer)] を押して、コールの保存を終了します。
パークされたコールをダイレクト コール パーク番号から取得する	ネットワーク内の任意の Cisco Unified IP Phone からパーク取得プレフィックスを入力し、ダイレクト コール パーク番号にダイヤルします。

ヒント

パークされているコールを取得するまでの時間は制限されています。この時間を過ぎると元の番号に戻って呼出音が鳴ります。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

ハント グループからのログアウト

大量の着信コールを受信する組織に属している場合、ハント グループのメンバーになっている可能性があります。ハント グループには、着信コールの負荷を共有する一連の電話番号が設定されています。ハント グループ内の最初の電話番号が使用中の場合は、次に使用可能な番号がグループ内で検索され、その電話機にコールが転送されます。電話機から離れているときは、ハント グループからログアウトすることによって、ハント グループのコールが自分の電話機で鳴らないようにできます。

目的	必要な操作
ハント グループからログアウトして一時的にハント グループのコールをブロックする	[オプション (Options)] > [ハント (HLog)] を選択します。電話スクリーンに「ハント グループからログアウト (Logged out of Hunt Group)」と表示されます。
ログインしてハント グループのコールを受信する	[オプション (Options)] > [ハント (HLog)] を選択します。

ヒント

ハント グループからログアウトしても、ハント グループ以外のコールは引き続き着信します。



共有回線の使用

次の場合、システム管理者が共有回線の使用を指示することがあります。

- 複数の電話機で 1 つの電話番号を使う
- 同僚とコール処理タスクを共有する
- マネージャに代わってコールを処理する

共有回線について

リモートで使用

回線を共有している別の電話機に接続コールがあり、プライバシーが無効になっている場合、「リモートで使用 (In Use Remote)」というメッセージと  アイコンが電話機に表示されます。「リモートで使用 (In Use Remote)」というメッセージまたは  アイコンが表示されていても、共有回線上で通常通りコールを発信したり、受信したりできます。

コール情報の共有と割り込み

共有回線の電話機には、共有回線で発信および受信したコールに関する情報がそれぞれ表示されます。この情報には、発信者 ID や通話時間などが含まれます（例外については、「[プライバシー](#)」を参照してください）。

コールに関する情報がこのように表示されているときは、[割り込み (Barge)] または [C 割込 (cBarge)] を使用して、回線を共有する同僚とともに、コールに参加できます。「[割り込みの使用による自分自身の共有回線のコールへの追加](#)」(P.68) を参照してください。

- [割り込み (Barge)] : 共有回線のコールを、組み込み割り込みが有効になっている IP 電話に結合できます。
- [C 割込 (cBarge)] : 共有回線のコールを、任意の IP 電話に結合し、そのコールを会議に変換できます。

プライバシー

ワイヤレス IP 電話は、デフォルトでプライバシーが有効になっています。プライバシーが有効になっている場合、回線を共有している同僚がこちら側のコールに関する情報を見ることはできません。回線を共有している同僚に対して情報を表示したい場合、自分の電話機に設定されているプライバシー機能を無効にする必要があります。「[他者による共有回線のコールの表示および割り込みの防止](#)」(P.69) を参照してください。



(注) 電話機は、1 つの共有回線に最大 24 のコールをサポートできます。

割り込みの使用による自分自身の共有回線のコールへの追加

割り込み機能（[C 割込（cBarge）] または [割り込み（Barge）]）を使用して、共有回線のコールに自分自身を追加できます。コールは、非プライベート コールである必要があります。「[共有回線について](#)」（P.67）を参照してください。



割り込み機能について

電話機の設定によっては、[割り込み（Barge）] または [C 割込（cBarge）] を使用して、共有回線の非プライベート コールに自分自身を追加できます。

- [C 割込（cBarge）] を使用すると、コールを標準の会議に切り替え、新しい参加者を追加できます。標準の会議の詳細については、「[会議コールの使用方法](#)」（P.54）を参照してください。
- [割り込み（Barge）] を使用すると、コールに自分自身を追加することはできますが、コールを会議に切り替えることや、新しい参加者を追加することはできません。

割り込み機能の使用方法

次の表に、割り込み機能（[C 割込（cBarge）] または [割り込み（Barge）]）を使用して共有回線のコールに自分自身を追加する方法を示します。



目的	必要な操作
共有回線が使用中であることを確認する	 アイコンと「リモートで使用中（In Use Remote）」というメッセージを見つけます。
共有回線のコールに参加する	<ol style="list-style-type: none">1. リモートで使用中のコールを強調表示します。回線表示を使用する必要がある場合があります。2. [オプション（Options）] > [割り込み（Barge）] または [C 割込（cBarge）] を選択します。
会議の参加者を表示する	「 会議参加者の表示または削除 」（P.58）を参照してください。
割り込みコールを残す	[終了（EndCall）] または  を選択します。 割り込みを使用した後に切断する場合、他の参加者に切断トーンが送信され、元のコールは継続します。 C 割込を使用した後に切断する場合、コールは会議コールのままです（ただし、少なくとも 3 人の参加者が回線に残っている必要があります）。

ヒント

- コールに割り込むと、他の参加者に対して自分の存在を知らせるピープ音が鳴ります。[C 割込 (cBarge)] を使用した場合は、他の参加者に短い割り込み音が聞こえ、電話機のスクリーンが切り替わって会議の詳細が表示されます。
- 共有回線の電話機でプライバシー機能が有効な場合、コールの情報や割り込みのソフトキーは、回線を共有する別の電話機には表示されません。
- [割込み (Barge)] を使用して参加したコールが保留状態になるか、転送されるか、または会議コールに切り替えられた場合は、そのコールから切断されます。

他者による共有回線のコールの表示および割り込みの防止

電話回線を共有する場合、プライバシー機能を使用し、回線を共有している他者が自分のコールを表示したり自分のコールに割り込んだりする（コールに参加する）のを防止することができます。

目的	必要な操作
他者が共有回線のコールを表示したり、コールに割り込んだりするのを防止する	<ol style="list-style-type: none"> 1. [オプション (Options)] > [非通知 (Private)] を選択します。 2. プライバシーがオンになっていることを確認するには、電話番号の横にある  (プライバシー有効アイコン) を確認します。
他者が共有回線のコールを表示したり、コールに割り込んだりするのを許可する	<ol style="list-style-type: none"> 1. [オプション (Options)] > [非通知 (Private)] を選択します。 2. プライバシーがオフになっていることを確認するには、電話番号の横にある  (プライバシー無効アイコン) を確認します。

ヒント

- 回線を共有している電話機でプライバシー機能が有効になっていても、共有回線を通常どおり使用して、コールを発信および受信できます。
- プライバシー機能は、使用している電話機のすべての共有回線に適用されます。したがって、複数の共有回線でプライバシー機能を有効にすると、自分が共有している回線すべてにおいて、同僚がコールを表示したりコールに割り込んだりすることを防止できます。

BLF の使用による回線の状態の確認

Busy Lamp Field (BLF; ビジー ランプ フィールド) 機能を使用すれば、電話機のスピードダイヤル、履歴、またはディレクトリ リストに関連付けられた電話回線の状態を確認できます。BLF ピックアップを使用すると、モニタ対象の回線で呼び出し中のコールに応答できます。どの BLF 機能を電話機に設定するかは、システム管理者が決定します。

目的	必要な操作
履歴またはディレクトリに表示されている回線の状態を確認する	<p>回線番号の横にある BLF インジケータを確認します。次のいずれかが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 回線は使用中です。 回線はアイドルの状態です。 回線はサイレント状態です。 回線は呼び出し中です。 この回線では、BLF インジケータは使用できません。
スピードダイヤル回線に表示されている回線の状態を確認する	<p>回線番号の横にある BLF インジケータを確認します。次のいずれかが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 回線は使用中です。 回線はアイドルの状態です。 回線はサイレント状態です。 回線は呼び出し中の状態です (BLF ピックアップのみ)。 この回線では、BLF インジケータは使用できません。
BLF ピックアップを使用して、同僚の電話機で呼び出し中のコールに応答する	<p>呼出中の回線を強調表示して、 ([選択 (Select)] ボタン) を押します。コールが自分の電話機にリダイレクトされます。電話機が自動ピックアップをサポートしている場合、自動的にコールが接続されます。サポートしていない場合、ユーザが自分でコールに応答するようにユーザ自身の電話機が鳴ります。</p> <p>(注) モニタ対象の回線が呼び出し中でないときに [オプション (Options)] > [ピック (Pickup)] または [G ピック (GPickUp)] を選択すると、電話機はその回線番号にスピードダイヤルします。</p>

ヒント

- モニタ対象の回線に呼び出し中のコールがあるときに、電話機がオーディオ インジケータを再生して通知する場合があります (BLF ピックアップのみ)。
- BLF ピックアップは、呼び出し中のコールの中で最も古いコールから応答します (モニタ対象の回線に呼び出し中のコールが複数ある場合)。



安全なコールの送受信

システム管理者が電話システムをどのように設定したかによって異なりますが、電話機では安全なコールの送受信がサポートされます。

電話機では、次のタイプのコールがサポートされます。

- *認証されたコール*：コールに参加しているすべての電話機の ID が検証されています。
- *暗号化されたコール*：電話機では、Cisco IP ネットワーク内で暗号化された音声（会話）が送受信されています。暗号化済みのコールは認証済みのコールでもあります。
- *保護されたコール*：電話機は、暗号化されたオーディオ（会話）を別の電話機との間で送受信しています。保護されたコールは、暗号化されたコールと同等のセキュリティを確保できるだけでなく、より高度なセキュリティも実現します。コールが両端で保護されている場合、会話の最初にセキュリティ トーンが再生されます。保護されたコールが設定された場合、会議コール、共有回線、エクステンション モビリティ、および回線をまたいで参加など一部の機能が使用できません。保護されたコールは認証されません。

- ノンセキュアコール：参加している電話機または接続の少なくとも1つでセキュリティ機能がサポートされていないか、電話機を検証できません。

目的	必要な操作
<p>コールのセキュリティ レベルを確認する</p>	<p>コール アクティビティ領域の右上、通話時間タイマーの横にあるセキュリティ アイコンが、次のいずれかの状態になっていることを確認します。</p> <p> 認証されたコールまたは会議</p> <p> 暗号化されたコールまたは会議</p> <p>コールが保護されていない場合、いずれのセキュリティ アイコンも表示されません。</p>
<p>接続の相手側の電話機も安全であることを確認する</p>	<p>暗号化を示す鍵のマークのアイコンが表示されていること、およびコールの最初にセキュリティ トーンが聞こえることを確認します。</p> <p>電話機に暗号化されたコールが設定されると、鍵のマークのアイコンが表示されます。ただし、会話が保護されるのは、セキュリティ トーンがコールの最初に再生される場合だけです。セキュリティ トーンの再生は、コールの両端が保護されていることを示します。保護されていない電話機にコールが接続されると、セキュリティ トーンは再生されません。</p>
<p>社内で安全なコールを発信できるかどうかを判断する</p>	<p>システム管理者にお問い合わせください。</p>



(注) 相互作用や制約、制限によって、電話機におけるセキュリティ機能の動作が悪影響を受ける場合があります。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

不審なコールのトレース

不審（迷惑）なコールを受信している場合、システム管理者は電話機に **Malicious Call Identification (MCID; 迷惑呼 ID)** 機能を追加できます。この機能を使用すると、アクティブなコールを不審なコールとして識別できます。その結果、一連のトラッキングと通知のメッセージが自動的に発信されます。

目的	必要な操作
システム管理者に不審なコールまたは嫌がらせのコールの受信を通知する	[オプション (Options)] > [迷惑呼 (MCID)] を選択します。 電話機でトーンが再生され、「迷惑呼が成功しました (MCID successful)」というメッセージが表示されます。





重要なコールの優先順位付け

官庁のような特別な環境では、緊急または重要なコールを発信および受信しなければならない場合があります。この特別なコール処理が必要な場合は、電話機への **Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)** の追加をシステム管理者に依頼します。

次の用語に留意してください。

- **Precedence** : コールに関連付けられたプライオリティを示します。
- **Preemption** : プライオリティの低い既存のコールを終了して、電話機に送信されたプライオリティのより高いコールを受け入れる処理です。

目的または状態	必要な操作
発信コールのプライオリティ レベル (Precedence) を選択する	対応するコールの Precedence 番号のリストについては、システム管理者にお問い合わせください。
プライオリティ (Precedence) コールをかける	電話番号の前に、システム管理者から提供された MLPP アクセス番号を入力します。
特別な呼出音（通常より速い）または特別なコール待機音が鳴る	プライオリティ (Precedence) コールを受けていることを意味します。コールのプライオリティ レベルは、電話スクリーン上の MLPP アイコンによって示されます。



目的または状態	必要な操作
コールのプライオリティ レベルを確認する	<p>電話スクリーン上の MLPP アイコンを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none">  プライオリティ コール  中程度のプライオリティの（即時）コール  プライオリティの高い（フラッシュ）コール  プライオリティの最も高い（フラッシュ オーバーライド）コール、つまりエグゼクティブ オーバーライド コール <p>より高いプライオリティのコールが、コール リストの先頭に表示されます。MLPP アイコンが表示されていない場合、コールのプライオリティ レベルは通常（ルーチン）です。</p>
プライオリティのより高いコールを受け入れる	通常どおりにコールに応答します。必要に応じて、先にアクティブなコールを終了します。
コール中に連続したトーンが聞こえる	自分または通話相手が、現在のコールより優先されるべきコールを受信しています。すぐに切断し、プライオリティのより高いコールの呼出音が鳴るようにします。

ヒント

- MLPP が有効なコールを発信または受信すると、標準のトーンとは異なる特別な呼出音とコール待機音が鳴ります。
- 無効な MLPP アクセス番号を入力すると、音声によるアナウンスでエラーが通知されます。
- 次の場合には、MLPP が有効なコールのプライオリティと優先ステータスがそのまま維持されます。
 - コールを保留にする
 - コールを転送する
 - コールを 3 者会議に追加する
 - [ピック (PickUp)] を使用してコールに応答する
- MLPP を使用すると、サイレント機能が無効になります。

Cisco エクステンション モビリティの使用法


Cisco Extension Mobility (EM; エクステンション モビリティ) を使用すると、Cisco Unified IP Phone を一時的に自分の電話機として設定できます。EM にログインすると、電話機は電話回線、機能、設定されたサービス、Web ベースの設定などのユーザ プロファイルを採用します。システム管理者は、EM を設定する必要があります。

目的	必要な操作
EM にログインする	<ol style="list-style-type: none"> 1.  > [EM サービス (EM Service)] を選択します (名前は異なる場合があります)。 2. ユーザ ID と PIN (システム管理者から取得) を入力します。 3. プロンプトが表示されたら、デバイス プロファイルを選択します
EM からログアウトする	<ol style="list-style-type: none"> 1.  > [EM サービス (EM Service)] を選択します (名前は異なる場合があります)。 2. ログアウトの指示があったら、[はい (Yes)] を押します。

ヒント

- 一定の時間が過ぎると、EM によって自動的にログアウトされます。この時間制限は、システム管理者により設定されます。
- (ユーザ オプション Web ページから) EM プロファイルに対して行った変更が反映されるのは、次回電話機の EM にログインするときです。
- 電話機でのみ制御される設定は、EM プロファイルでは維持されません。

アプリケーション ボタンの使用

アプリケーション ボタン  (電話機の左側) を使用して、電話機で、Push to Talk やその他のサービスなどのアプリケーションを開始することができます。




システム管理者がアプリケーション ボタンをどのように設定するかにより、同ボタンは、メイン画面からのみ使用できるか、すべてのメニューまたはサービスから使用できるか、あるいは電話機がロックされていても使用できる場合があります。

アプリケーション ボタンは、押した後すぐにアプリケーションが起動されるように設定することも、数秒間押し続けた後に起動されるように設定することもできます。

詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

Push to Talk サービスの使用

Push to Talk サービスを使用すれば、組織のメンバーと、(双方向ラジオと同じく) 即座に通信を行うことができます。システム管理者が Push to Talk サービスを設定し、その後、自分でサービスに登録する必要があります。

目的	必要な操作
Push To Talk サービス	Cisco Unified CallManager 4.3 以降を使用するシステムについては、「電話サービスへの登録」(P.113) を参照してください。 Cisco Unified Communications Manager Release 5.0 以降を使用するシステムについては、「Web での電話機サービスの設定」(P.121) を参照してください。
Push To Talk サービスを使用する	<ol style="list-style-type: none"> > [Push to Talk] を選択します (名前は異なる場合があります)。  アイコンが表示されているとき、Push to Talk サービスはアクティブになっています。 ボタンを使用し、サービスがどのように設定されているかに基づいて、伝送を開始または終了します。[通話 (Talk)] および [中止 (Stop)] を使用して、伝送と聴取を切り替えます。 <p>(注) システム管理者が、Push to Talk サービスの使用方法に関する詳細を提供します。</p>

バーコード スキャナの使用

システム管理者は、電話機の上部にあるスキャン モジュールによって 2D バーコードをスキャンするように Cisco Unified Wireless IP Phone 7926G を設定することができます。電話機は、Java MIDlet を使用して、バーコードの日付によって、値段、場所、およびインベントリ情報を表示します。バーコード スキャナの使用については、システム管理者に問い合わせてください。



(注) Cisco Unified Wireless IP Phone 7926G では、ファームウェア バージョン 1.4 (1) 以降を実行する必要があります。